

公衆衛生情報

ひろがるヒューマンネットワーク わたなべ小児科医院 院長 渡部礼二さん

調査研究REPORT 介護保険施設における感染予防に求められる保健所の役割

必健仕掛け人 おきゅなすが斬る! 健康管理部門は無色無臭!?

ルポ 口腔ケアをすべての特定高齢者に

2006
November
Vol.36
No.11

11

座談会

自主グループって こんなにすごい!

Tomoyo

迅速情報が 地域の子どもたちを救う

感染症サーベイランス、保育所健康管理などに取り組む小児科医師



渡部礼二さん

Reiji Watanabe

石川県金沢市で医院を開業、さらに「感染症は流行る前の段階の、小さな芽のうちに動かないと遅い」と、メーリングリストや電子メールを使用し、感染症予防をはじめとした公衆衛生にも積極的に取り組む小児科医師、渡部礼二さん取材しました。

わたなべ小児科医院 院長

ひろがる
ヒューマン
ネットワーク

Human
Network

生まれて小学生まで育った金沢で開業。現在地域医療に携わる傍ら、金沢大学小児科学臨床教授(学外)も務める

ときには関係機関への 直談判も辞さず



上/「渡部先生は、噛み砕いてわかりやすく説明してくださるので、不安に思うこともすぐに解消されます」とお母さん方からの信頼も厚い

左/わたなべ小児科医院のスタッフと



「毎週県からも感染症情報は出ているのですが、大体二週間くらいタイムラグがあって遅いんですよ。しかも行政は、アウトブレイクを確認してからでないと動いてくれない。その頃にはもう、三次感染、四次感染へと広がってしまっています」

と語るのは、石川県金沢市のわたなべ小児科医院院長、渡部礼二さん。金沢大学で感染症グループに属していたという渡部さんは、卒業後に医局勤務、勤務医を経て、一九八八年より同地で小児科医院を開業しています。

「とは言え私たち医師も長い間ずっと、外来で子どもたちを診断、治療するのに手一杯で、インフルエンザや麻疹をはじめとする地域の感染状況を、ほとんど把握していなかったのも事実です」

そんな多忙な日常の傍ら、県内の小児科医師の間で、感染症情報や医学情報といったきめ細かな情報交換を可能にしたのは、インターネットの普及でした。一九八〇年代より始まった、金沢大学のOB、OGが集まって

の症例検討会「小児科月一會」が母体となり、小児科医師の情報交換の場としてメーリングリスト（ML）を立ち上げたのは二〇〇〇年の秋です。

以来MLでは、インフルエンザや麻疹を中心とする毎日の感染症報告を、小学校や保育所等の施設単位（未就園児は居住地）で集計、二、三日毎に更新し配信しています。また、週報では疾患別に居住地区、学校等の施設名、学年または年齢、性別、診断日（麻疹の場合は発症日も）といったさらに細かい情報を、発症後の二週間（麻疹は三週間）にわたって掲載しているのです。

そして、そうした流行の状況をいち早く掴むことが、日々の診療に役立っていることは言うまでもありません。

「どの小児科医師もそうなんです、麻疹なんて昔と違っていまは五、六年に一人診断するくらい、しかも潜伏期間は風邪の症状と似ているので、なかなか診断がつかえません。そこで、周辺地域の発症状況を前もって知っておけば、受付の予診で麻疹が疑われる子については、一般の待合室ではなく隔離室で診察の順番を待ってもらうなど、院内において二次感染を防ぐための対応がすぐにできるのです」（渡部さん）

インフルエンザについても、発生情報を把握することで、初期症状の段階での迅速診断キットによる素早い診断、治療とともに、流行拡大の阻止につながっています。

小児科月一会MLグループ会長の西田小児科医院の西田直巳さんと。「メンバーは良い意味でお尻が軽い(笑)。しかも情報収集能力とその継続力は、ほかでは真似できません」



金沢大学で感染症グループに所属していた渡部さんは、現在も、内分泌・アレルギー抗体検査以外の検査室検査をほとんど院内で行っている



「私たち小児科医師は地域に密着して、地域保健にこそいちばんの仕事があると思っています」と語る小児科月一会MLグループで中村小児科医院の中村英夫さんは、地域の保健師とも連携して活動を行っている

二〇〇三年に県内の単科大学で起こった成人麻疹集団感染の際には、こうした県および地域の感染症に対するモニタリングシステムが有効に機能、流行の拡大阻止に向けて連携しての取り組みや大学への早期介入といった支援が行われました。

同年四月、近県で開催された全国高校剣道大会を発端とした麻疹集団感染が複数県で報告されており、石川県でも県内のいくつかの高校で剣道部員に麻疹感染の報告を確認していました。五月になって、麻疹迅

現在、MLの会員数は約一〇〇名、活発な情報交換によって、より充実した地域医療を実現しているのです。MLのメンバーが中心となり、さらに精度の高い系統的なサーベイランスの必要性から、二〇〇二年、県の「麻疹迅速把握事業」へ、また同じ年に、より組織的な麻疹撲滅プロジェクトの必要性から、石川県小児科医会による「石川はしかゼロ作戦委員会」の発足へと発展、活動の幅が広がっています。

速把握事業に報告があった単科大学の学生一名を発端に、約二週間の間に同大学で九名の発症報告があったのです。

これらの情報から、アウトブレイクをいち早く予測した石川はしかゼロ作戦委員会は、早急な対応を図るよう大学へ直談判。保健所も加わって大学と合議の上、学生、教職員合わせて約六、三〇〇人の集団予防接種が行われるに至ったのです。当然、感染は施設内に止まらないことから、マスクミからも地域住民に予防接種や予防への呼びかけを行いました。このときの感染は、石川県内の高校生剣道大会によって広がったことがのちに確認されます。

「じつは、以前麻疹が二次感染で数人発生した段階で、県や関係団体には連絡をしていたことがあるんですが、相手にしてもらえなかった。そうこうしているうちに、全県に麻疹が拡大したことがあったのです。しかし、この単科大学の件は、県と関係団体との迅速な対応と連携がうまく稼働し、それがなによりも大切だという良い教訓になりました。麻疹は現代においても、一、〇〇〇人から二、〇〇〇人に一人は亡くなる、恐ろしい感染症ですから」

石川はしかゼロ作戦委員会では、教育・保育施設用と医療施設用に「麻しん対応マニュアル」を作成、予防、予防接種、発症した際の対応、治療などの普及啓発に努めています。

行政とも一緒に汗して信頼関係



しかも、渡部さんの特筆すべきところは、MLメンバーとしての活動のほかにもさらに個人活動として、嘱託医を務める石川県立保育専門学園附属泉保育所、平和保育所、弥生乳児保育所について、電子メールによる日々の健康管理を行っていることです。咳・鼻汁等の呼吸器症状は「せき」の「S」、下痢・嘔吐などの消化器症状は「げり」の「G」、発疹は「H」、熱は「N」、休んだ子については「Y」といった記号や、あるいは「中耳炎」「目やに」といったかたちで、子どもたち一人ひとりについての疾病情報が三か所の保育所から毎日、渡部さんのところへ電子メールで送られてきます。渡部

さんは、それらの疾患情報の種類と数がクラスごとに自動集計されたグラフを見て、子どもたちの健康状態を把握、注意すべき点や気になる点をはじめ、県内や近隣地域の感染症情報などを保育所に向けて返信しているのです。

泉保育所所長の安川英子さんは、

「渡部先生に出会うまで嘱託医の先生といえ、子どもたちの健診のときだけのお付き合いですという感じで、あまり身近な存在ではありませんでした。しかし渡部先生は、冬場で風邪が流行しているときなどには、手洗い、うがいのほかに、教室の湿度を五〇%以上に保ちましょうといった予防のための情報も、すぐに私たちに伝えてくださいます。嘱託医の本来の役割である、こちら側からの子どもたちの健康相談にも親身になって乗ってくださいますし、ほんとうに頼りになります」

そのほかにも、学校保健法、児童福祉法等のもと、保育所・幼稚園で耳鼻咽喉科、眼科、内科についてアンケート方式で健康状態が把握できる「保健調査表」を自ら作成し、定期健診で活用しています。また、校医を務める学校においてのノロウイルスやサルモネラ菌の感染状況の調査、小児科月一会のメンバーと一緒に行った「インフ



「ちょうど僕らが医学部の学生の頃は大学紛争で、だからいまだに「長いものには巻かれる」という考え方は嫌ですね(笑)」

ルエンザ流行時における学級閉鎖の有効性」といった研究など、臨床の傍ら、調査研究にも余念がありません。

小児科月一会のメンバーで、渡部さんは旧知の仲の石川県石川中央保健福祉センター所長、川島ひろ子さんは、

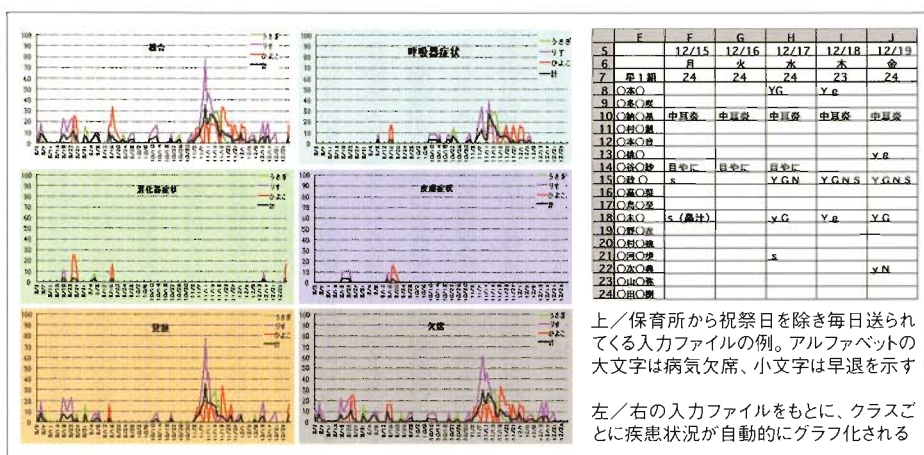
「公衆衛生というのは、県とか保健所だけでできるものではなく、地域医療の支援がなければできない業務もたくさんあります。渡部先生をはじめ月一会のみなさんは、ただ患者を診るだけでなく、常に公衆衛

生的な視点を持って、地域の住民や子どもたちのためにどう動けばいいのかを考えて活動をしてくださっているのです、とてもありがたい。逆にこちらのほうが教えられたり情報をもらう機会も多く、私にとってはみなさん、素晴らしい知恵袋であり、一緒に汗して頑張ってきたからこそ信頼関係で繋がっています」と語ります。

「学会に行けばもっと熱心な医師はたくさんいるし、私なんかまだまだ」と謙遜する渡部さんですが、子どもたちの健やかな成長と健康のためなら寸暇を惜しまない、「町の小児科先生」の鑑であることは間違いないありません。

撮影・川島俊昭／文・林理恵

●問い合わせ先
わたなべ小児科医院
TEL 076 243 0200



上／保育所から祝祭日を除き毎日送られてくる入力ファイルの例。アルファベットの大文字は病気欠席、小文字は早退を示す

左／右の入力ファイルをもとに、クラスごとに疾患状況が自動的にグラフ化される